

GLと

つなぐ坂

GLを



■コンセプト

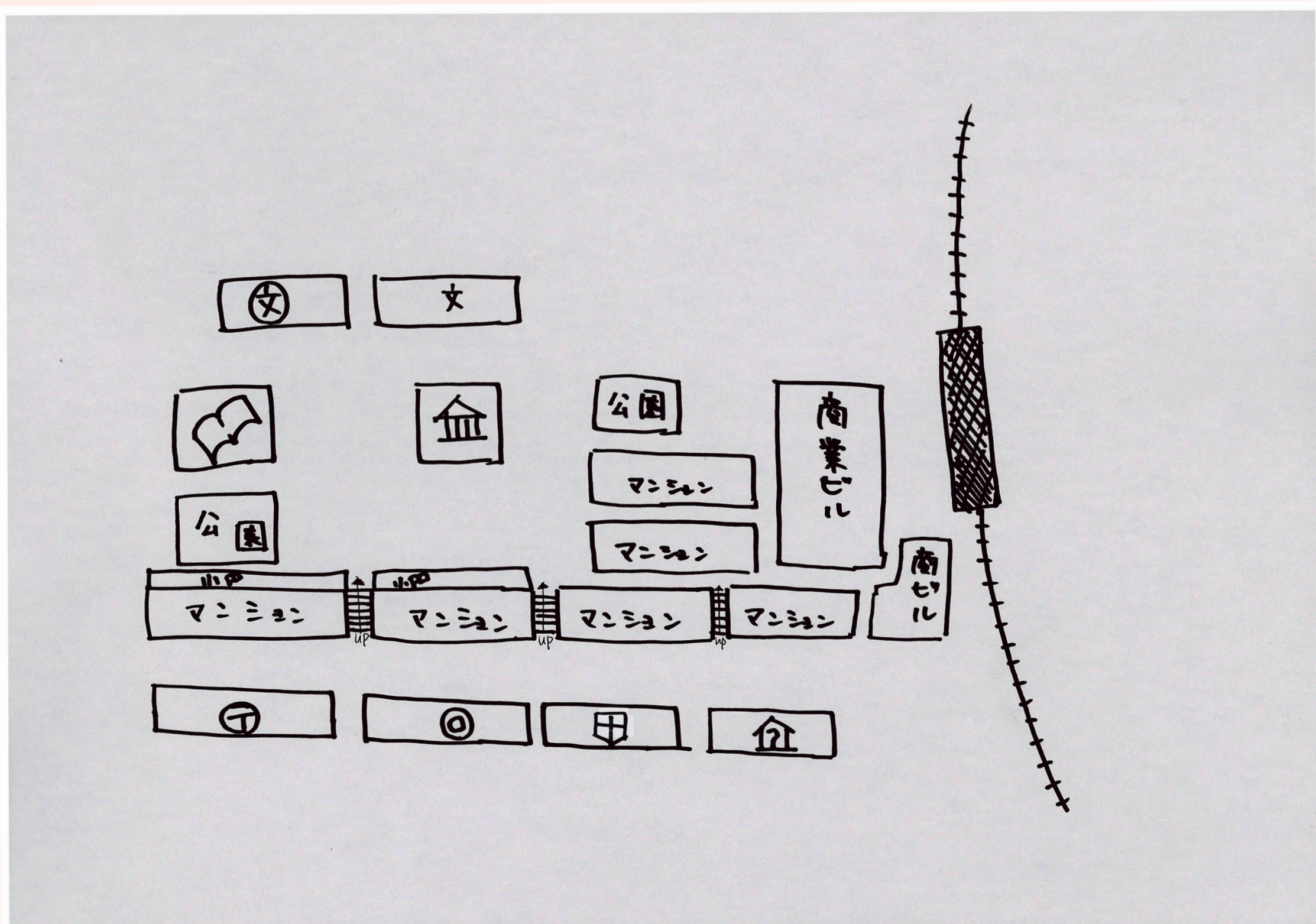
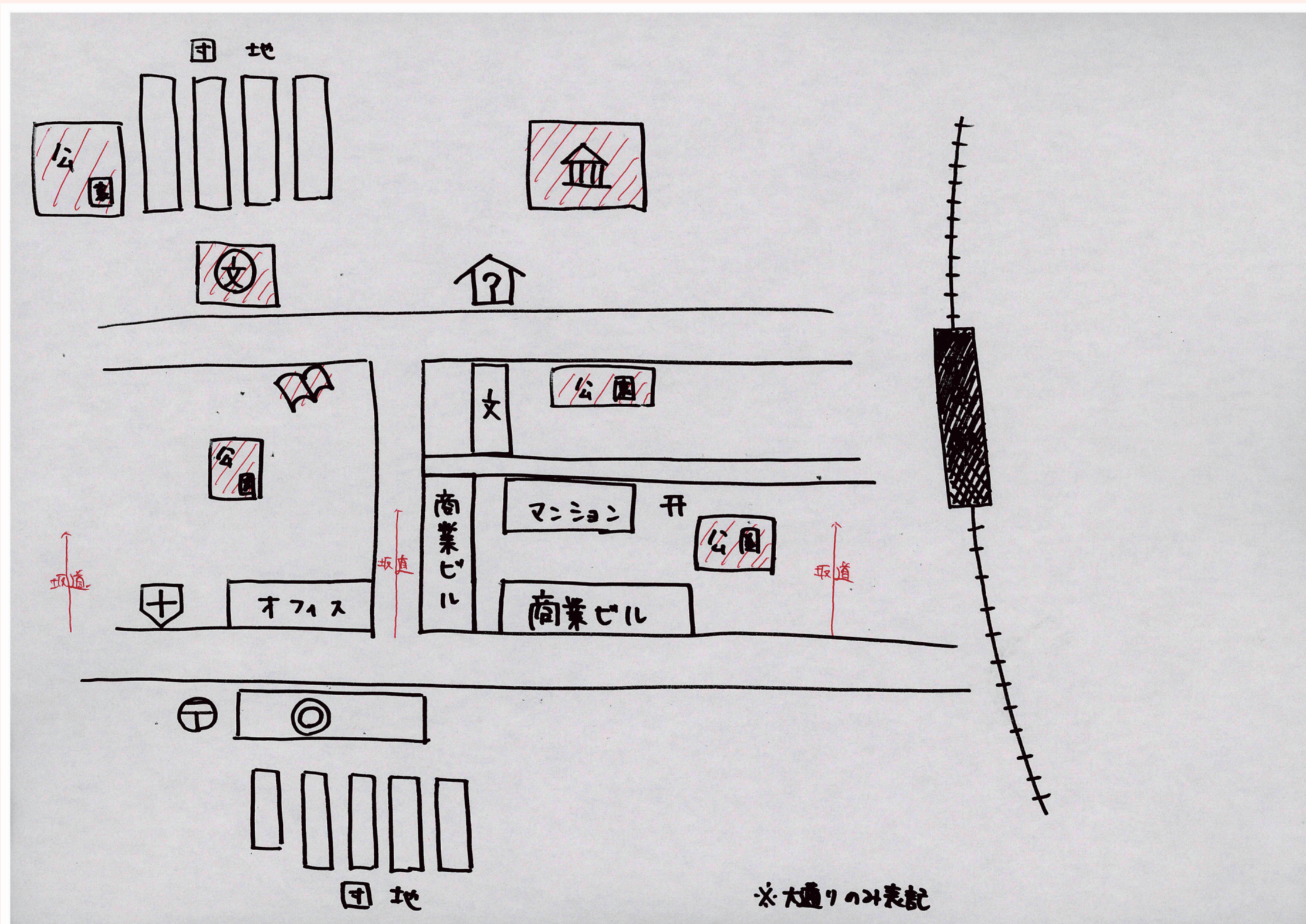
GLは、図面上ではまっすぐな直線として表現されます。しかし、私たちが住む実際のGLというのは凸凹で、高低差があります。高低差のある2つのGLの間にはつなぐための斜めのGLが存在し、町の中で坂として現れたり、階段としてあらわれそれらをつなぎます。私たちは、その斜めのGLに、価値観によって人を分け、興味によって人を集める装置としての役割を持たせたいと考えました。

■問題提起

社会は、多くの価値観が混在しています。その中でも人によって大きく差が出るのが『子供』に対する価値観(大人に寄り添った考え方 OR 子供に寄り添った考え方)であると考えます。そしてその価値観の衝突(子供の声がうるさい、邪魔、ボールを公園で使わせてほしくない)は日々起こり解決策として採択されるのは、大人寄りの提案(お母さんが子供を黙らす、子供が使えなくなる、公園でのボール使用禁止)です。もちろん、会社内などの大人が優先されるべき世界でそのようなことが起こるのは当然だと思います。しかし、公園内や学校などの子供が優先されるべき所ではそのようなことが起こってほしくないなと考え、建築的な側面で解決できないかなと考えました。

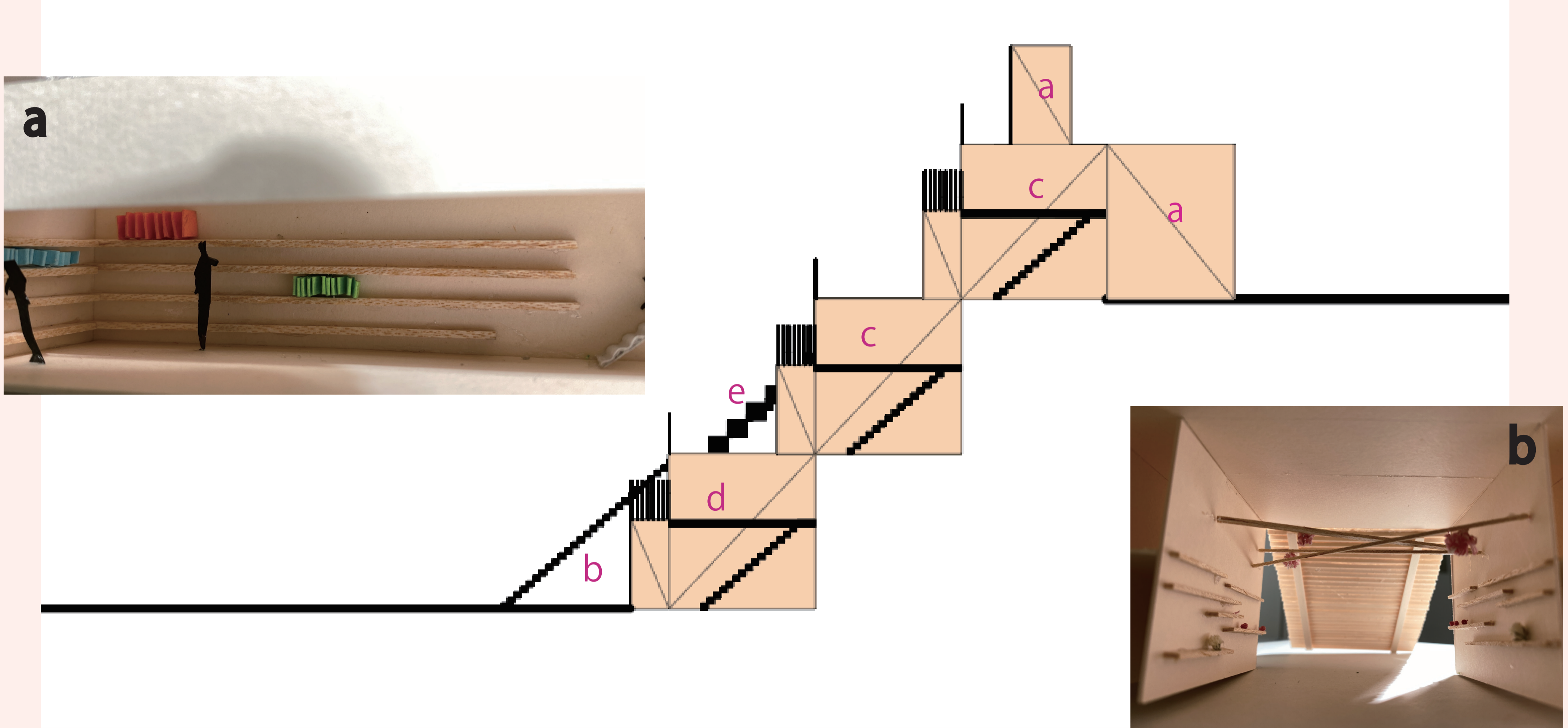
■操作

上で考えたような問題は、子供に対する価値観や優先順位が大きく異なる人が隣り合っていることで起きると考える。よって、ある程度生活の中で子供に対する価値観や優先順位が似たような人が人が集まり、住み分けをすることによってどちらも快適に過ごせると考えた。町田駅周辺は、勾配が続いている。この勾配の上と下とで価値観によって住み分けを行い、その中間地点である勾配に2つのエリアをつなぐ建築を設計する。そのような操作を行うことにより、互いのエリアを寛容し関心を持つ人は関わり、逆に関わりたくない人はかかわらずに住むのではないかと考える。



■ 建築意図

具体的には、勾配エリアにたつ集合住宅に広場的な役割を持つ坂道を作ろうと考えている。具体的なエリア分けとしては、段が下に行くにつれ大学生の寮などの比較的大人が住むようなところにし、階が上がるにつれて子供を持つような家庭が入るようにする。そして、階段の上の方には小図書館、階段の間には小売店を設ける。加えて、階段に公共スペースを設けることによって大人のエリアと子供のエリアの交流を促す。



a. 小図書館

この図書館は、近くの住人読み終わった本などを追加してゆくことによって本棚が埋まってゆくようなみんなの本棚である。

b. テナント

上下の人が関わるきっかけの1つ。階段の下に併設されている。

e. 階段広場

この階段は、中腹から上階にかけて座り話することができるスペースを設けている。このスペースが存在することで、人の流れが活発化する。また住宅に向かう方向の通路を狭くすることで住んでいる人以外が住居区域に入りにくい雰囲気作りをしている。

c. 住宅 (3人家族想定)

上から2段目までがこの造りになっている。1階にLDK&トイレ・風呂があり家族のみんなのスペースがあり、2階には主寝室と子供部屋がある。

d. 住宅 (学生賃貸想定)

一番下の段がこの造りになっています。2つの価値観のエリアの緩衝材の役割を果たす。

